

テーマ：「唐津大使と唐津市長がみなとまちを熱く語る」

講演者 西方裕之（にしかた ひろゆき）
唐津大使（唐津市出身演歌歌手）

講演者 坂井俊之（さかい としゆき）
唐津市長



坂井市長

皆さん、長時間お疲れ様でございます。いよいよ今日のシンポジウム最後の時間になってまいりました。どうか皆さん方も肩の力をお抜きいただきまして、ゆっくり西方さんと私のお話を聞いていただき、後で、「今日の話はこうだったぞ」、「町ではこういうことを考えなきゃいかんぞ」なんていうきっかけにづくりになれば、ありがたいなあと思っています。

さきほど、司会から、唐津大使のお話が出ました。この唐津大使、ひと言、どういう意味で、意図でつくったのか説明させていただきます。唐津大使は、唐津市の出身者、そしてまた唐津市に関係の深い著名人の方々に、この美しい自然と風土に育まれた、この歴史・文化・観光都市、唐津を国内外に発信をしていただくために唐津大使として応援をしていただくということを目的に、平成 16 年の 4 月にこの唐津大使を設置致しました。その第一号が西方裕之さん、唐津市出身でございます。西方さんの歌は、皆さん、ご存知の方はもちろん、今日は後援会の方々もお見えでございましょうから、ご存知だと思いますけれども、玄界灘、そしてまた唐津くんちをテーマにした「玄海そだち」がちょっと前に発表されまして、非常に威勢のいい、この唐津をまさに元気づけるような、そんな歌でございました。唐津を応援するメッセージソングとして、唐津市の推薦曲としても致しているところでございます。

そういった意味で、今日は唐津大使、西方裕之さんといろいろな港について、港の町づくりといったものについて語ってみたいというふうに思いますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思っております。さっそくご紹介を致します。唐津大使、西方裕之さんです。どうぞ。

<海にまつわる歌の話>

西方氏

西方裕之です。どうぞよろしく申し上げます。歌わないステージは初めてでして、かなり緊張しております。

坂井市長

今度、また新曲を出されましたね。

西方氏

はい。「海峡列車」。

坂井市長

「海峡列車」。やっぱり海ですよ。西方さんの歌というのは、どうしても一番最初の「北海水滸伝」。

西方氏

デビュー曲が「北海水滸伝」。実は、この歌の作詞をされた星野哲郎先生は、玄界灘の出身だから、最初は玄界灘を舞台に「玄海水滸伝」というタイトルで作っていただきました。

坂井市長

最初は「玄海水滸伝」だったのです。やっぱりどうしても、港の出身でもありますし、海にまつわる、もちろん男歌、それから、今は女性の立場で歌われる歌と、たいへん幅広い歌をお歌いのですが、やっぱり僕らは、西方裕之さんといえば海の歌。やはり、そういった意味では、また今度も「海峡列車」。

西方氏

私はやはり海で育ちましたので、海に対する思いが深いですね。こうして海をテーマに、この席を講演というかたちで呼んでいただいて、すごく光栄ですよ。

坂井市長

ありがとうございます。そういう意味で、「海峡列車」も非常にいい歌ですね。

西方氏

先々週の火曜日に「歌謡コンサート」で歌いました。ご覧になられた方もたくさんいらっしゃる方もおられるかと思えます。

坂井市長

NHKの「歌謡コンサート」で西方さんが歌われてますので、お聴きになられた方々もいらっしゃると思いますが、西方さんの歌が流れた時は、是非聞いて頂きたいと思っております。

やはり、今の港、海。やはり、演歌といえばというか、海、港町というのがありますから、そういった意味で、全国各地でコンサートをやられて、いろいろ各地をまわられたりしながら、非常に記憶に残っておられる港町。実は、今日、新潟収入役さんもお出ででございますけれども、昨日は新潟へ行ってらっしゃったのです。

<新潟の話>

西方氏

一昨日、昨日と新潟で、たぶんご存知だと思いますけれども、新潟放送さんの大倉修吾さんの番組で、朝の9時から11時までの生放送の番組で出てきました。いろいろやっぱり、自分は今、東京に住んでいるんですけども、新潟県は近いですよ。新幹線で2時間かからないで行けるので、結構お邪魔させていただいております。

新潟も、佐渡にも行きましたし、日本海側に、何て言いますかね、県がこう長く続いているじゃないですか。すごく海水浴場もたくさんあって。仕事で、ホテルから会館、例えば、駅から、空港から歌う現場というほうが多いんですよ。偶然、時間帯と天気とか重なって、きれいな夕日を、日本海、特に新潟の港から見る夕日。水平線にしずむ間際まできれいに見える夕日。きれいだったですね。はあ、それは印象的、印象に残っていますよ。佐渡島がうっすら見える青山海岸。青山海岸ですね。きれいですよ。

坂井市長

ああ、そうですか。やっぱり夕日がきれいな町。それも一つの港町の大きな売りと言うのですか、大きな一つの誇りと言うのですか、そういうものもあると思うのですけど。他はどこか行かれて、港町で行かれた中で印象に残っているところはありますか。

<福井の話>

西方氏

もう全都道府県行っているんですけど、日本海側で印象的なのは福井県です。おいしい蟹を食べ、「のどぐる」という魚が、おいしかったです。

坂井市長

そういうお魚がおいしいとかいうのも、港町、海の町ならではですね。

西方氏

やっぱり海は魚、魚介類ですよ。そこでも、やはり福井の、福井港から見る夕日もきれい。

坂井市長

福井港から見る夕日もきれいですか。なるほどですね。やっぱり港町と言ったら、先ほど西方さんがおっしゃっていただいたとおり、おいしいもの、海の幸といったものが非常に新鮮で、非常においしい。魚がおいしい、魚介類がおいしいということですね。それともう一つ、夕日、そういう景色にも美しい恵みを我々に与えてくれるといったものも、港町のまた一つの良さであろうというふうに思っているのです。

そういった一つのメイン。例えば、小樽でいうと、あの煉瓦造りの景色。

<小樽の話>

西方氏

小樽運河は有名ですよ。夜になると、ライトアップして、すごい演出で。昼間は、のどかな感じで、夜になると、まあきれいですよ。これは、いくつもの顔があって、演出次第で。それも、例えば、自分も里帰りして、唐津の風景を見て、そういういい演出ですかね、そういういいところは真似てもいいんじゃないかなと、そういうふうに思いますね。

坂井市長

ああ、なるほどね。確かに、今、西方さんも、それから会場の中でも、おわかりになって、ご覧になった方もたくさんいらっしゃると思いますけど、小樽運河というのは、昼間の顔というのは普通場所なのです。そんな日本全国が注目して特筆するべき、というところじゃないのかもしれないけど、夜になると最高のムードをかもし出していますね。

私も唐津を離れている時期がありましたので、やはり中にいるときはわからなくて、外から見たら、何か涙ぐんじやうような故郷の良さをわかったりするものだと思うのですが。西方さんから見て、唐津の売りというか、唐津の印象ですね、故郷のどこがいいと思いますか？

<唐津の話>

西方氏

私も 25 歳まで唐津に住んでいまして、その時はやっぱりみんな、お城もそうだし、松原もそうだし、鏡山もそうだし、呼子も、全部当たり前の景色で、いつも見る景色じゃないですか、何も思わないのですが、こうして離れて、遠いところに住んで、16 年の 4 月には唐津大使という大役を仰せつかって、改めて自分の故郷、唐津を見ると、「ああ、ここもいいじゃないか、あそこもいいじゃないか」となるのですよ。まず、帰ってきて、心が安らぎますよね。毎日せわしく時間に追われて仕事をしていると、何かこう、自分の故郷に帰ってくると時間が止まったような、一日 24 時間が 48 時間くらいあるような、そんな印象を受けますよね。まずやっぱり安らぎ、安らげる故郷。さっきから言っていますけど、いろいろな景色もあるし、魚介類も豊富じゃないですか。最近では、呼子のイカが全国的に有名になって。

坂井市長

そうですね。どうですか、港ですよ、小さい頃覚えておられる風景、例えば、天日干しとか、いりこの天日干しとか、いろいろあったと思うのです。私もそうですが、家と海が非常に近いのですよね。西方さんのお家も僕はよく知っていますが、本当に目の前、道を隔てたら海ですから。そういった意味で、海に近いところに住んできた人間としては、海の匂いですかね、海の大きさとか、優しさというものが故郷に繋がっているのかもしれないですね。

西方氏

波の音が自分の子守歌でもあったなど、改めて、波の音がなくなってそう思いますね。先ほど坂井市長もおっしゃっていますけど、いりこの天日干し。小さい時に、あんまり親の手伝いしなかった。親父は捕鯨船に、大洋漁業の捕鯨船の船員だったので。半年以上航海に行っていて、帰ってくると、今度は、いりこ漁。地元のいりこ漁で。それをバーッと天日干しで広がるのですよね。あの風景が今なくなって、いりこ、イワシもだんだん海温、海水の温度が変わって獲れなくなって、高級魚になってきているじゃないですか。だから、何か寂しいなど。その風景を、その当時は本当に嫌な、親の手伝いをしなきゃいけない嫌な仕事だったので、その風景を見られないというのは寂しいです。だから、今帰ってくると、何かこう漁港の、自分の故郷が、活気がないなど。自分が上京する頃よりも活気がないような気がしますね。

坂井市長

さきほど、樋口先生のお話にもありましたけど、どうしてもハード面になりますと、国や、或いは県が、市がという話になるわけですね。それは予算がかかることですから、仕方がないことなんですけど、やはり、唐津の市民の皆さん方、いろいろな思いで、昔から、西方さんご存知かと思いますが、振興会の皆さん方の先代、竹尾会長が、記念碑もこの間、唐津港に建立もしたわけですけども。竹尾会長がしょっちゅう言ったのは、「海栄えるとき、町も栄える」という言葉が、自分の先輩の時代からずっとやっていて、「やっぱり海が栄えていかんば、唐津が栄えていかん」と。

そういった意味で、唐津港町づくり懇話会の皆さんが、延べ1,000人の皆さん方が議論に加わって

いただいて、まさに市民の皆さんが、もう一回思い、海に近く、海と一緒に育ってきた自分達の思いというものを、もう一回、自分達の権利と言いますか、取り戻して、港を活性化していこうとしているのです。唐津の地元が使いやすい整備、唐津の良さを活かしながら、みなとまちづくりを進めなければならないと考えておりますが、皆さんのご協力が必要ですので、よろしくお願いします。